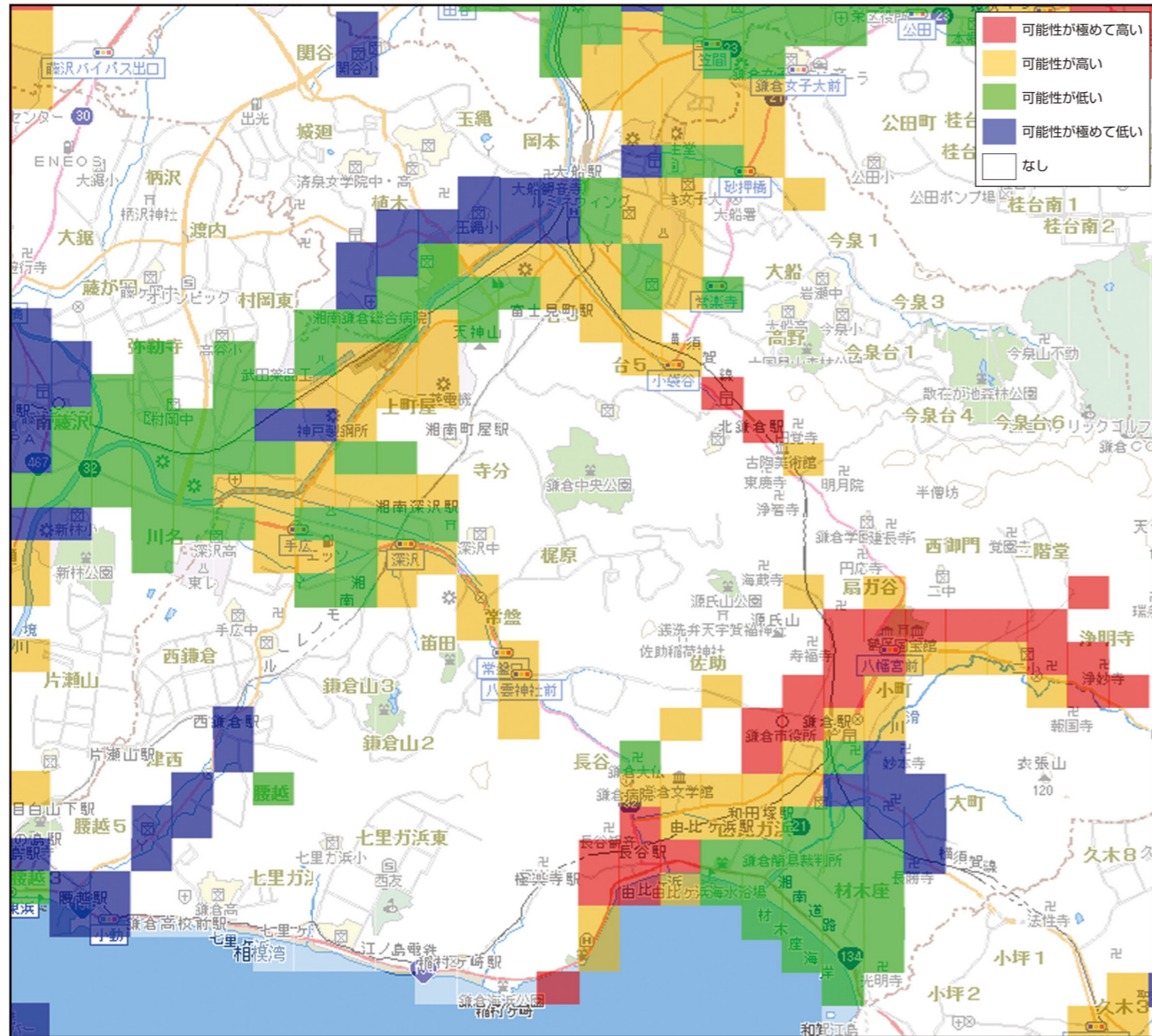


# 液状化想定マップ (県想定南関東地震)



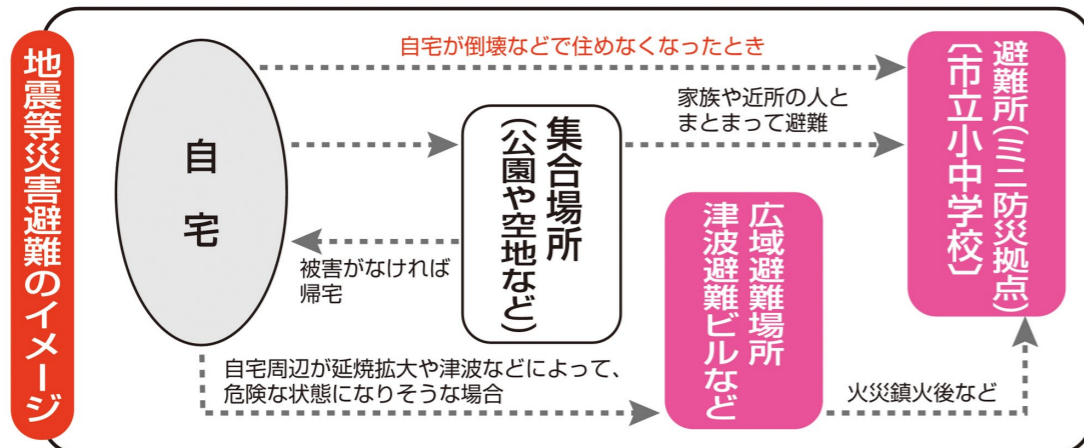
## 液状化について

液状化は地下水位が高く締まりのゆるい地盤、粒度が均質な砂地盤で起こりやすいと言われております。埋立地や盛土地、旧河道、湿地などが液状化しやすい地盤です。

神奈川県ホームページ「e-かなマップ」では、想定地震ごとに液状化の想定が確認できますが、図に示したように250mメッシュであり、「液状化の可能性が高い」地域で必ず液状化することを示したものではありません。

「e-かなマップ」にある「土地履歴情報マップ」により、明治期の古地図を閲覧でき、液状化の可能性について多角的な観点から知ることもできます。

## トピックス - 災害からの避難のめやす -



# 風水害・土砂災害に備えて

台風や豪雨による災害は毎年のように繰り返され、私たちは風水害・土砂災害の危険にもさらされています。家族の安全と財産を守るために、日ごろからの備えが重要です。



## 対策の基本は安全対策と情報収集

台風や大雨は、襲来時期や規模をある程度予測できるとはいえ、台風などがもたらす大雨・強風の威力は計り知れません。また台風が過ぎ去ったとしても河川の増水・氾濫のおそれがあります。河川の近くや浸水の可能性がある、または浸水歴がある所にお住いの方は、土のう袋や水のう袋を事前に用意しましょう。そして、刻々と変化する状況については、テレビ・ラジオなどの気象情報や防災行政無線・広報車などの情報にじゅうぶん注意し、万全の対策をとるようにしましょう。

- ◆土のう…土入りですぐ使えるものと、袋のみで砂や土を自分で入れるものがホームセンターなどで購入できますので、事前に備えておきましょう。また、市では、集中豪雨などの緊急時に備えて、土のうを用意しています。その際は、最寄りの消防署まで取りに来ていただく必要があります。
- ◆水のう…二段重ねができないため、使用は深さ10cm程度までの浸水時に限ります。次の方法で簡単に作ることができます。
  - ①45ℓ程度のビニール袋を二重にし、中に半分程度(持ち運べる重さ)水を入れる。
  - ②玄関や窓などに隙間なく並べる。

あくまでも小規模な浸水の対策です。危険を感じたら、早めに避難してください!

## 台風

日本列島には、毎年多数の台風が接近・上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害にあっていきます。雨や風が強くなってから対策を始めるのは大変危険です。台風の接近が予測されたときは早め早めの準備をしましょう。

## 集中豪雨

### ◆集中豪雨とは

短時間のうちに狭い範囲に集中して降る大雨を集中豪雨と呼んでいます。非常に激しい雨が何時間も同じ場所に降り続けると、大きな災害となります。大雨災害の多くは集中豪雨によるものです。

## 雨の降り方 ※気象情報に注意しましょう (浸水の中の避難は非常に危険です!)

### ◆やや強い雨 (1時間に10~20mmの雨)



地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

### ◆強い雨 (1時間に20~30mmの雨)



土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。テレビやラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えを。

### ◆激しい雨 (1時間に30~50mmの雨)



バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになります。避難の準備を。

### ◆非常に激しい雨 (1時間に50~80mmの雨)



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

### ◆猛烈な雨 (1時間に80mm以上の雨)



息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害が発生する危険があり、厳重な警戒が必要です。

### ただちに命を守る行動をとる

市町村からの避難勧告等に従い直ちに避難所に避難! 外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動



「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。